

ASEAN グローバルプログラム に参加して

奥山 晃希

Koki OKUYAMA

数理・情報科学課程 3年

1. はじめに（全体の概要・まとめ）

2023年8月26日から9月1日までの約1週間、ベトナムの首都ハノイで ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回このプログラムに参加した主な目的は、グループワークを通して母国語が異なる方たちとのコミュニケーションの取り方を学ぶことと、ベトナム人学生も含めた7人の学生と円滑にグループワークを行うことで、日本人だけでなく集団で一つの目的に向かって作業するを経験し、学ぶことであった。本プログラムの実習は表のようなスケジュールで進んだ。

表 主な研修日程

8月26日（土）	日本からベトナム（ハノイ）へ移動 オリエンテーション
8月27日（日）	ビジネスパーソンとの交流会 市内観光（戦勝記念博物館など）
8月28日（月）	Willer Vietnam 稲田様による講演 ハノイ工業大学との交流会
8月29日（火）	アンケート調査（旧市街、ロッテホテル周辺）
8月30日（水）	アンケート調査（ハノイ工業大学） 発表資料作成
8月31日（木）	最終発表
9月1日（金）	帰国

2. 本プログラムの概要

本プログラムは大きく2つのカリキュラムによって構成されていた。1つ目は現地ベトナムで実際に働いている社会人の方々のお話を伺い、海外で働くイメージを持つというものであった。2つ目は今回の目的とした、現地の学生とベトナムの交通課題解

決に向けたビジネスプランを考えていくというPBLであった。また、ビジネスプランを考えるだけでなく、考えたプランを発表し、ベトナムの民間企業の方にフィードバックをもらうことができた。このように本プログラムはベトナムの交通事情や文化を学ぶインプットだけでなく、学んだことを元にベトナムの交通課題の解決方法を考え、発表するアウトプットも行えるため短期間で大きく成長することができたと自負する。

3. プログラムの内容報告

このプログラムの中で、私は特にPBL中の発表資料作成と最終発表について報告する。

3.1 PBL 発表資料作成

8月30日に行われた発表資料作成では8月29日と30日に行ったアンケート調査の結果を元に作業し、その後31日の最終発表で使用する資料をパワーポイントで作成した（写真1）。資料を作成するときに一番難しかったのは、各自の役割分担を決めることであった。私は本プログラムでグループのリーダーだったので、グループメンバーに指示を出すことが多かったが、資料作成で暇になってしまう人を出さないように役割分担をするのが非常に難しかった。また、グループメンバーにはハノイ工業大学のベトナム人学生もいたので指示の出し方が分からず最初は戸惑っていた。しかし、身振り手振りでコミュニケーションを行うなどして何とか作業の指示を出すことができ、暇になってしまう人がいないようにすることができた。また、グループメンバー全員が積極的に資料の作成を行ってくれたことによって、30日のプログラム終了までに資料を完成させることができた。



写真1 発表資料作成の様子

3.2 PBL 最終発表

8月31日の最終発表では6グループそれぞれのベトナムの交通課題を解決するビジネスプランの発表があった(写真2)。発表後には Willer Vietnam の社員の方から評価頂き、そこで頂いたビジネスプランに対する質問に回答した。

最終発表は非常に緊張したが、無事に私達の考えたビジネスプランは伝えることができたと思う。しかし私は発表時に原稿ばかり見てしまい、前を向いて発表できなかった。この反省を活かし、次の発表の場ではしっかりと前を向き、人の目を見て発表したい。また、他のグループの発表から学ぶことも多く、同じ課題に対しても様々な見方があることを学べたし、発表の仕方や構成などについて良い点も学ぶことができた。

Willer Vietnam の方から鋭い質問を頂いたことによって、自分たちが考えたビジネスプランの甘い点や自分たちが考えていなかった商品の売り方などの点に気づくことができた。私は質問には速やかに回答できたと思うが、的確な答えができていたかは自信が無く、この点も反省している。他のグループの回答から学ぶことも多く、この点も勉強になった。



写真2 最終発表の様子

4. 成長と気づき、卒業までの目標

本プログラムを通して、私は参加目的であった他国の方とのコミュニケーションの取り方と円滑にグループワークを行う方法を学ぶことができたと思う。他国の方とのコミュニケーションは、言語の壁があっても伝えたい気持ちが強ければボディーランゲージ (body language) によって、ある程度は自分の意思を伝えることができると実感した。僅かな英語の単語だけでも、諦めず頑張れば十分にコミュニケーションを行うことができた。さらに円滑にグループワークを行うには、他の人の意見に耳を傾けることの重要性にも気づくことができた。こまめにコミュニケーションを取り、お互いに報告しあうことで作業の進みが良くなると実感した。しかし、最終発表後に行ったグループ内でのメッセージ交換(良い点と改善すると尚良い点を伝えるという課題)では、メンバーから一人で抱え込まずにもっと頼ってほしいとも伝えられた。これを参考に、またリーダーの役を担う際には、できるだけ人を信頼して作業を任してみる、ということ心を心がけようと思った。

この目標とは別に、私はアウトプットの機会を増やすことを卒業までの目標の一つにしようと考えている。責任も伴い少し怖くもあるが、アウトプットは自分を大きく成長させる場合もある事、またそのアウトプットを行うことが少ないことに気が付いた。したがってアウトプットの機会を増やし、卒業までに自分をさらに大きく成長させていきたいと思う。